

慶應義塾大学SFC研究所  
X.SDG Lab.



# サステナブルビジネス認証 と 地方創生SDGsの推進

2025年8月21日

慶應義塾大学大学院教授

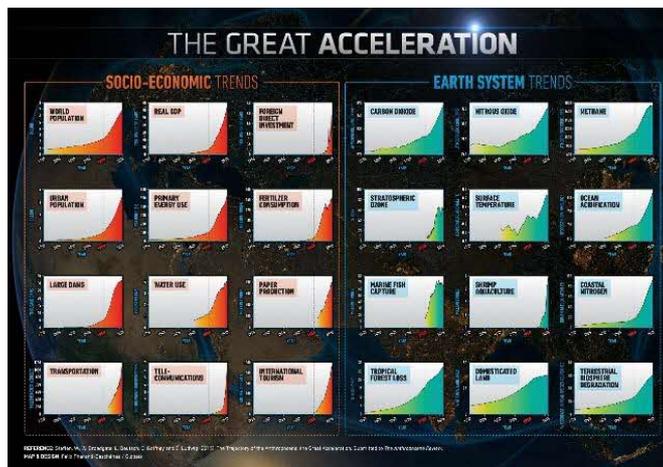
Keio STAR 副所長

xSDG・ラボ 代表

蟹江憲史

# なぜSDGsか

不均衡な経済発展  
インフレ、不景  
気...



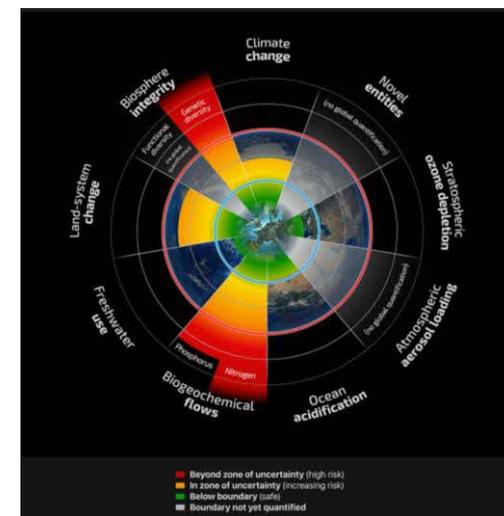
環境  
地球

経済  
カネ



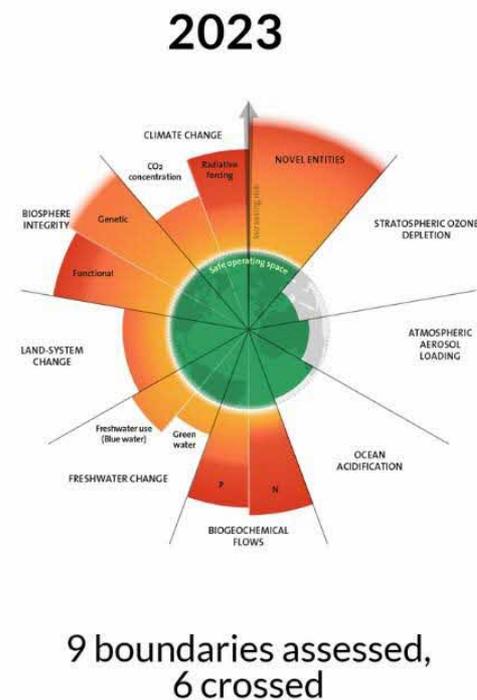
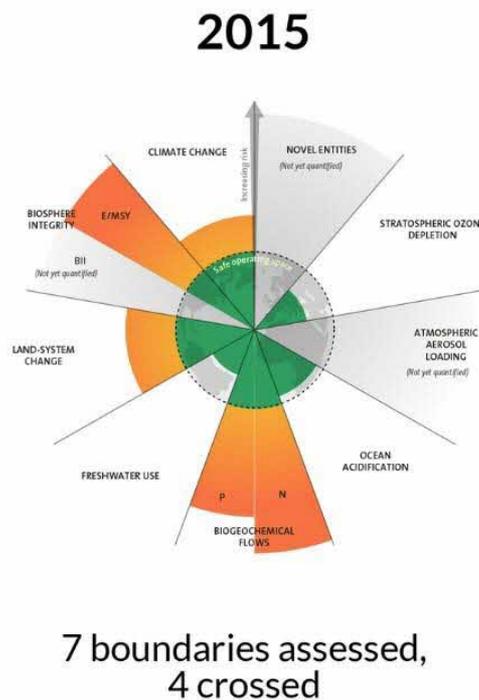
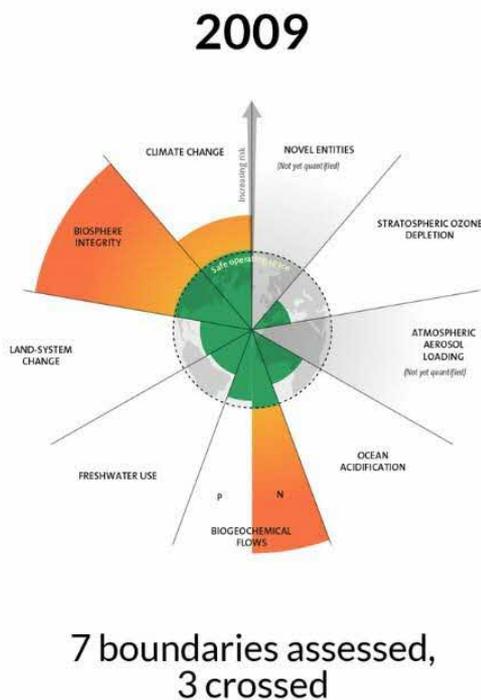
社会  
ヒト

人間活動に起因する  
地球システムの限界  
(人類世、人新世)



格差、ジェンダー、高齢化など社会課題の深刻化

# 地球の限界：気候・資源・汚染



The evolution of the planetary boundaries framework. Licenced under CC BY-NC-ND 3.0 (Credit: Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University. Based on Richardson et al. 2023, Steffen et al. 2015, and Rockström et al. 2009) Click on the image to download.

科学はすでにいくつかの課題で地球容量が限界を迎えていると言っている

9つの境界のなかで、気候変動、生物圏の保全、土地変化、淡水、生物化学的変化など6分野

# 人間が地球をかえる：1950年から右肩上がり急加速

## 社会経済的な傾向



## 地球システムの傾向



REFERENCE: Steffen, W., W. Broadgate, L. Deutsch, O. Gaffney and C. Ludwig (2015). The Trajectory of the Anthropocene: the Great Acceleration, Submitted to *The Anthropocene Review*.

MAP & DESIGN: Félix Pharand-Deschênes / Globaia



このままの成長パターンでは地球がもたない!!

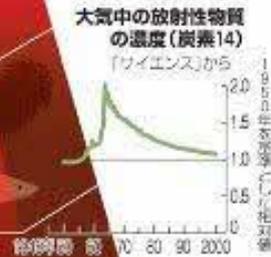
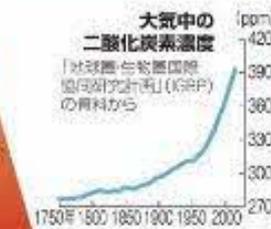
# 人新世

人類が地球を変える時代

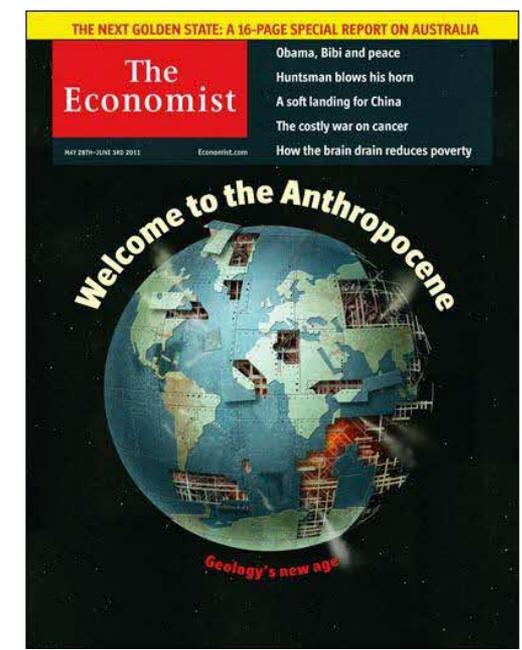


生物の絶滅

- いつ始まった?
- 約8千年前 農耕や牧畜の拡大 (二酸化炭素CO<sub>2</sub>やメタン濃度の増加)
  - 1492~1800年 新大陸の発見と進出 (大陸を越えた生物種の移転など)
  - 1760年~ 産業革命 (CO<sub>2</sub>の増加, 石炭燃焼による) (大気汚染物質の増加)
  - 20世紀半ば 核実験と人為的変化の「大加速」 **最有力**



人間活動が原因  
人間活動もアンバランスに→経済社会の持続可能性



May 26, 2011

# SDGsで「未来のカタチ」を提示

1. 変革／トランスフォーメーションが必要：  
「2030アジェンダ」のタイトルに  
(Transforming Our World／我々の世界を  
変革する)

- 「だれ一人取り残されない」で実現



2. 「目標」からはじまる仕組み「目標ベースのガバナンス (governance through goals)」

- 「必要なこと」が示されている → バックキャストの発想
- 国連でルールを決めない → ターゲット・ルール作りは国に責任、各主体で実施を進める
- 進捗の評価・レビューがメカニズム



3. 総合的目標：17目標は一体で不可分

- 課題解決の関連性：シナジー／トレードオフ



# 2025年日本レビュー (VNR)

1 健康を なぐさむ	1.1.1	1.2.1	1.2.2	1.3.1	1.4.1	1.4.2	1.5.1	1.5.2	1.5.3	1.5.4	1.a.1	1.a.2	1.b.1			
				-			↓	↑			-					
2 清潔な 水の	2.1.1	2.1.2	2.2.1	2.2.2	2.2.3	2.3.1	2.3.2	2.4.1	2.5.1	2.5.2	2.a.1	2.a.2	2.b.1	2.c.1		
		↓				↑	↓		↑		↓	↓		-		
3 すべての人に 健康と福祉を	3.1.1	3.1.2	3.2.1	3.2.2	3.3.1	3.3.2	3.3.3	3.3.4	3.3.5	3.4.1	3.4.2	3.5.1	3.5.2	3.6.1	3.7.1	3.7.2
	↑	↑	↑	↑	↑	↑				↑	↓		↑	↑		-
	3.8.1	3.8.2	3.9.1	3.9.2	3.9.3	3.a.1	3.b.1	3.b.2	3.b.3	3.c.1	3.d.1	3.d.2				
	-	↑		↓	↓	↑	-	↑		-	↑	↑				
4 質の高い教育を みんなに	4.1.1	4.1.2	4.2.1	4.2.2	4.3.1	4.4.1	4.5.1	4.6.1	4.7.1	4.a.1	4.b.1	4.c.1				
	-	-		↑		-		↓		-						
5 ジェンダー平等を 実現しよう	5.1.1	5.2.1	5.2.2	5.3.1	5.3.2	5.4.1	5.5.1	5.5.2	5.6.1	5.6.2	5.a.1	5.a.2	5.b.1	5.c.1		
	-	-	-	-			↑	↑					↑			
6 安全な水とトイレを 世界中に	6.1.1	6.2.1	6.3.1	6.3.2	6.4.1	6.4.2	6.5.1	6.5.2	6.6.1	6.a.1	6.b.1					
	↑		↑	-			↑			↓						
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7.1.1	7.1.2	7.2.1	7.3.1	7.a.1	7.b.1										
		-	↑	↓	↓	↑										
8 働きがいも 経済成長も	8.1.1	8.2.1	8.3.1	8.4.1	8.4.2	8.5.1	8.5.2	8.6.1	8.7.1	8.8.1	8.8.2	8.9.1	8.10.1	8.10.2	8.a.1	8.b.1
	↑	↑	-			↑	↑	↑		↓		-	-		↓	
9 産業と雇用創出の 革新をつなぐ	9.1.1	9.1.2	9.2.1	9.2.2	9.3.1	9.3.2	9.4.1	9.5.1	9.5.2	9.a.1	9.b.1	9.c.1				
		-	-	-			↑	↑	↑	↑	↑	↑				
10 人や国の不平等を なくそう	10.1.1	10.2.1	10.3.1	10.4.1	10.4.2	10.5.1	10.6.1	10.7.1	10.7.2	10.7.3	10.7.4	10.a.1	10.b.1	10.c.1		
	-			↑		-						-	↑			



## グローバル指標の評価方法

グローバル指標の評価は以下のように行った。「未整備」はデータが取得できない場合、「達成」は到達水準に達した場合を意味する。いずれにも該当しない場合に、2021年から2024年の数値が取得可能な期間の平均値を上回り改善をもたらした場合は「改善傾向」、平均値を下回り後退した場合は「後退傾向」としている。「-」は指標から傾向が定義できない場合や指標が複数である場合等のために傾向を一律に判断できないことを示している。

11 住み続けられるまちづくりを	11.1.1	11.2.1	11.3.1	11.3.2	11.4.1	11.5.1	11.5.2	11.5.3	11.6.1	11.6.2	11.7.1	11.7.2	11.a.1	11.b.1	11.b.2	11.c.1
					-	↓	↗	↗	■	↗			-	■		
12 つくる責任 つかう責任	12.1.1	12.2.1	12.2.2	12.3.1	12.4.1	12.4.2	12.5.1	12.6.1	12.7.1	12.8.1	12.a.1	12.b.1	12.c.1			
				↗	■						↗	■				
13 気候変動に 具体的な対策を	13.1.1	13.1.2	13.1.3	13.2.1	13.2.2	13.3.1	13.a.1	13.b.1								
	↓	■		↗	■											
14 海の豊かさ を守ろう	14.1.1	14.2.1	14.3.1	14.4.1	14.5.1	14.6.1	14.7.1	14.a.1	14.b.1	14.c.1						
			↗	↓		-			↗	■						
15 陸の豊かさ を守ろう	15.1.1	15.1.2	15.2.1	15.3.1	15.4.1	15.4.2	15.5.1	15.6.1	15.7.1	15.8.1	15.9.1	15.a.1	15.b.1	15.c.1		
			-					■		■		↓	↓			
16 平和と公正を すべての人に	16.1.1	16.1.2	16.1.3	16.1.4	16.2.1	16.2.2	16.2.3	16.3.1	16.3.2	16.3.3	16.4.1	16.4.2	16.5.1	16.5.2	16.6.1	16.6.2
	↗				↓	↓			↓						-	
17 パートナーシップで 目標を達成しよう	17.1.1	17.1.2	17.2.1	17.3.1	17.3.2	17.4.1	17.5.1	17.6.1	17.7.1	17.8.1	17.9.1	17.10.1	17.11.1	17.12.1	17.13.1	17.14.1
	-	↗	↗	-				-		↗	↓				-	
	17.15.1	17.16.1	17.17.1	17.18.1	17.18.2	17.18.3	17.19.1	17.19.2								
	■			■			↗									



計測出来ているのは174指標（全248指標中）。

そのうちすでに達成しているのは20指標、改善53指標、後退22指標

判断不可 79指標

未整備 74指標

# 残された細い道を進めるか？

High Energy Consumption ↔ Low Energy Consumption

Climate Change

Planetary Boundary

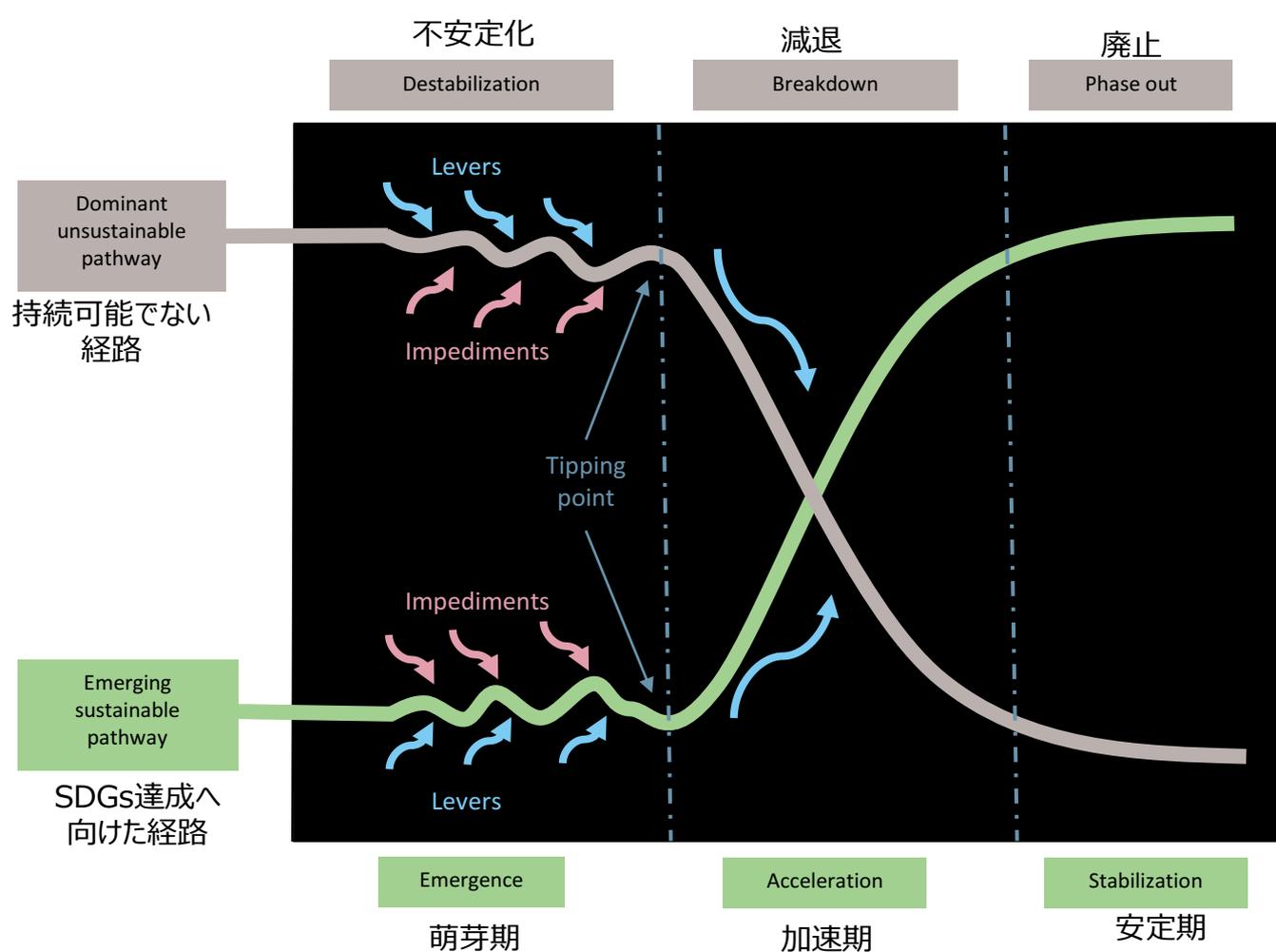
Access Foundation

Poverty Insufficiency

💧 かくすかに希望の兆しがある前方に狭い道が続いているが、左側に落ちると灼熱地獄が待ち受けていて、右側だと水や食料やエネルギーが十分に得られない辛い日常生活が待ち受けている (Narrow Corridor)

# → この状況から (も) トランスフォーメーション【変革】が必要

Global Sustainable Development Reportで提示する「Sカーブ」モデル



変革を3段階に分割

- 萌芽Emergence
- 加速Acceleration
- 安定Stabilization

持続可能な解へ導くテコ (lever) を同定する必要

分岐点・転機 Tipping point:

ex.

- 認識や価値観の社会的変化 (例: 使い捨てプラスチック利用)
- イノベーションが経済的社会的に使いやすくなったり、社会的に望ましいと思われる (例: スマホ)
- 政策導入

# 必要とされる行動

## 1. 見える化（測る）：グローバルガバナンスの求めるところ

- 押し寄せる情報開示の波：TCFD、TNFD等次から次へ来る開示をSDGで整理・対応・準備・先行
  - DXの活用
- あるべき姿とのギャップを計測



## 2. 行動をとる

- 先の姿を描きながら、まずやってみる（萌芽を作る）
- やってみることで次のステップが見える
- （行動を始めたところを褒める、表彰する）
- 取り組むメリットを示す
- ウォッシュ批判に抗する



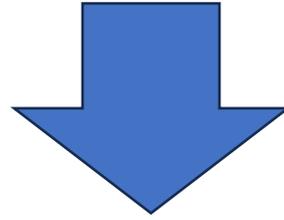
## 3. 仲間を広げ行動を広げる

- サプライチェーンを変革する
- 課題間のシナジー増大、トレードオフを解消



Sustainable Business  
GOLD





「SDGsを推進する」ためにやる  
ではなく

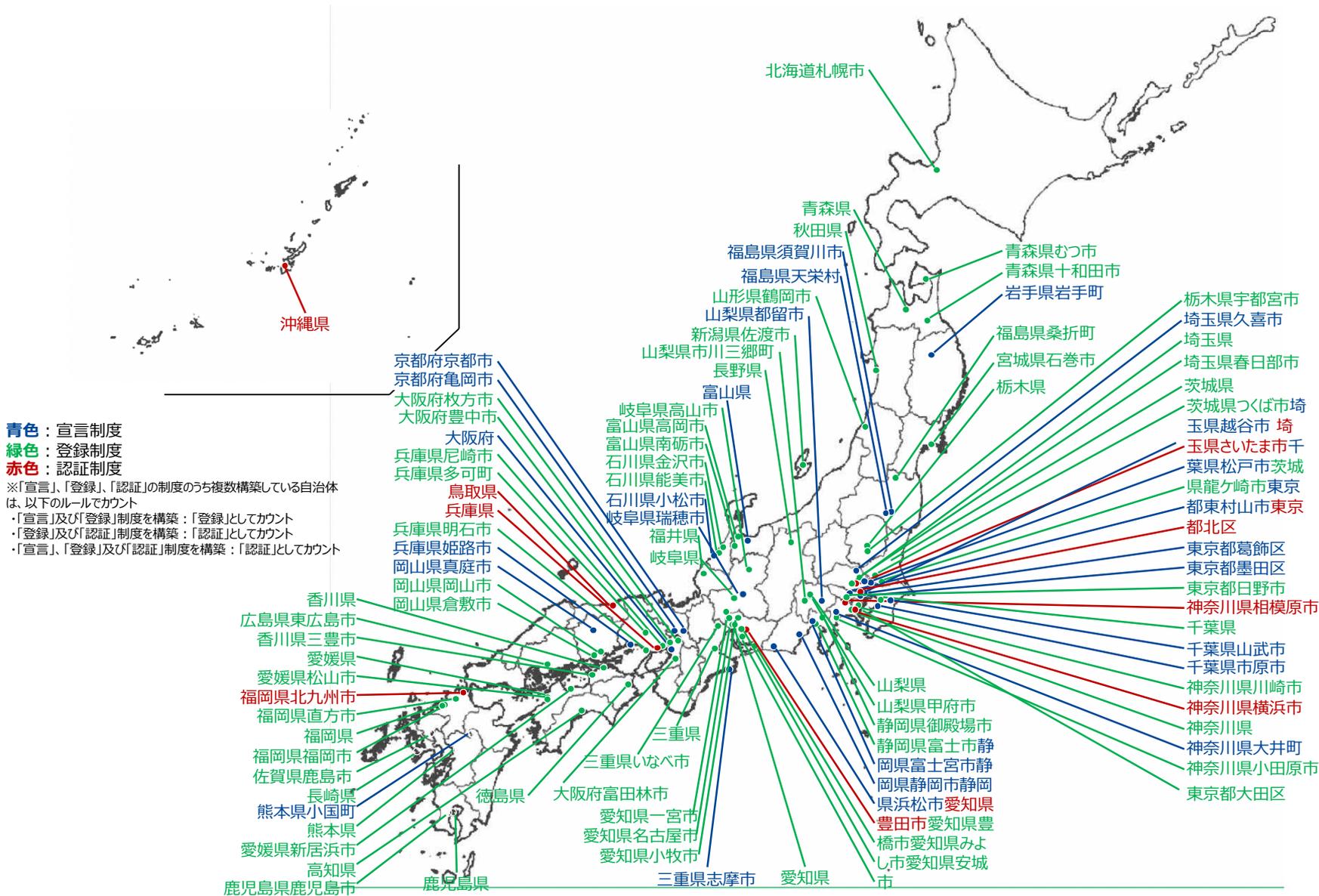
「経営課題からSDGsにリーチする」  
ことが推進のカギ

採用  
女性活躍  
健康経営  
災害対策  
...



そのための道しるべが認証  
そのための仲間づくりが認証

# これまでの主な実績 - SDGs金融 宣言・登録・認証制度構築都市一覧 (全103自治体)



# ビジネス認証の推進



## サステナブルビジネス認証制度



©2024 Japan Sustainable Business Organization



**Sustainable Business**  
**BRONZE**

求められるルール（法律・規則、ガイドラインなど）で活動している企業



**Sustainable Business**  
**SILVER**

より実効的な取り組みの実施や一定の成果を挙げるなど、活動を発展させている企業



**Sustainable Business**  
**GOLD**

課題解決に向けて働きかけるなど、活動を深化させている先駆的企業

認証を受けることにより、ブランディング、優秀な人材の確保など様々な面でアドバンテージを取得すると同時に、持続可能な企業としての第三者への証明に  
⇒ サプライチェーン管理上のツールに

## S 機構設立の背景

SDGs達成へ向けて、大企業を中心にSDGsへの取り組みが活発化しており、サプライチェーン全体としてのSDGsへの取り組みが期待されています。中堅・中小企業においては、企業価値を高めるための取り組みを加速させる必要性が増す一方で、どこから始めれば良いかわからないとの声が聞かれます。そこで、大企業へのSDGs推進はもちろんのこと、中堅・中小企業のSDGsへの取り組みを支援するため、一般社団法人日本サステナブルビジネス機構を2024年3月に設立いたしました。

## S 認証制度について

SDGsの企業認証制度として、公的・全国的に確立されたものはまだありません。地方創生 SDGsの取り組みとして、登録・認証制度を有する自治体は83 に及びますが、そのうち認証制度を有するのは3 自治体に止まります（内閣府調査：令和5年3月末）。世界ではUNDPがSDGsインパクト基準を作成し、このうちの「企業・自治体向け」を活用して認証制度の構築を目指していますが、その内容は概ね大企業向きの内容となっています。中堅・中小企業の実情に合った認証制度の必要性が高まってきている中、SDGsの有識者と研究を進めてきた「サステナブルビジネス認証制度」を実施することとなりました。これにより、日本におけるSDGs推進基準を作るとともに、その標準化を目指すことで、胸を張ってSDGsを推進しているといえる企業を応援します。

## 認証に必要な25項目

◎	1 賃金	おもに従業員に関するもの
◎	2 健康	
◎	3 教育	
◎	4 安心・安全	
◎	5 育児・介護休暇	
◎	6 女性のエンパワメント	
◎	7 人権(指導原則)	
◎	8 ダイバーシティ	
◎	9 ハラスメント	
◎	10 地域雇用	
◎	11 持続可能な調達	
◎	12 地域課題	
◎	13 災害	
☆	14 水資源	おもに環境課題に関するもの
※	15 再エネ	
◎	16 省エネ	
※	17 気候変動	
※	18 有害化学物質・ 大気汚染物質	
☆	19 循環型	
◎	20 生物多様性・天然資源	おもにガバナンス課題に関するもの
◎	21 公正な取引	
◎	22 戦略	
◎	23 透明性	
◎	24 ステークホルダー	
◎	25 イノベーション	イノベーションに関するもの
◎	必須項目	
☆	業種等によってチェック項目 が異なる項目(どちらかは 必須項目)	
※	自社に該当するかどうかを 判断する項目	

# チェック25項目:SDGs目標との対応関係

		SDG目標																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
		貧困	栄養	健康	教育	ジェンダー	水・衛生	エネルギー	雇用	産業	平等	都市・人間居住	SCP	気候変動	海の生態系	陸の生態系	ガバナンス	実施手段
1	賃金	X							X		X							
2	健康			X					X									
3	教育				X				X			X						
4	安心・安全			X					X									
5	育児・介護休暇			X		X			X									
6	女性のエンパワメント					X			X		X						X	
7	人権(指導原則)								X		X						X	
8	ダイバーシティ								X		X							
9	ハラスメント					X			X								X	
10	地域雇用								X			X						
11	持続可能な調達									X			X					
12	地域課題				X				X				X					X
13	災害											X		X				
14	水資源			X			X						X		X			
15	再エネ							X		X				X				
16	省エネ							X		X				X				
17	気候変動													X				
18	有害化学物質・ 大気汚染物質			X			X						X					
19	循環型											X	X					
20	生物多様性・天然資源				X								X		X	X		
21	公正な取引																X	
22	戦略																X	
23	透明性												X				X	
24	ステークホルダー										X						X	X
25	イノベーション	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X

# サステナブルビジネス認証制度

サステナブルビジネス認証制度は、企業の取り組みがどのレベルにあるのかを評価・認証するもの  
以下のようなチェック項目を25個設けて、3段階（GOLD、SILVER、BRONZE）に分けて認証を実施

<例>

## 2. 健康

◎すべての企業が対象となる項目

□チェックNo. 従業員の労働時間を適切に管理し、心身の健康増進に取り組んでいる	
基本項目：この項目から2個以上 1. 労働時間の適正な把握のため、使用者が講ずべき措置に関するガイドラインに基づいた取り組みを行い、労働時間の短縮に向けた施策も実施している。 2. 従業員の健康の保持増進のためのTHP指針や産業保健マニュアルに沿った取組を行っている 3. 受動喫煙を回避するため、職場における受動喫煙防止のためのガイドラインに沿った取組を行っている 4. 自治体や国の健康経営企業の認定を受けている 5. 休暇、緊急時、病気などの理由で年次有給休暇を取得しやすい環境を整備している（計画的付与制度を導入等）	選択した2個以上の項目に (説)  4の場合は認定証
レベルBへの発展項目 1. 労働時間管理の手段を定期的に見直している	(説)
レベルAへの発展項目 1. 時間外労働を削減する行動をとっている 2. 自社の労働時間の縮減が行われ、国内外の関連企業に対して労働時間管理が適切に行われるように働きかけている	(説) (説)

達成すべき状態

BRONZEを取得するための項目

SILVERを取得するための項目

GOLDを取得するための項目

# 機構組織

## <理事長>

蟹江 憲史 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、  
SFC研究所xSDG・ラボ代表)

## <理事>

亀山 和哉 (日本航空株式会社ESG推進部長)

川廷 昌弘 (サステナビリティ・プロデューサー / Good Story Lab.  
代表)

國谷 裕子 (ジャーナリスト、東京藝術大学理事、慶應義塾大学  
特別招聘教授)

坂口 尚 (株式会社肥後銀行経営企画部サステナビリティ  
推進室長)

松田 孝裕 (SDGsコンサルタント / ティ・エムコンサルティング  
株式会社代表取締役)

## <幹事(企業)>

明治安田生命保険相互会社  
株式会社MARK N

## <幹事(省庁)>

内閣府 地方創生推進事務局

環境省 環境省地球環境局国際連携課 課長補佐 浜 一朗様

中小企業庁 経営支援部 創業・新事業促進室 室長 掛川 昌子様

## <幹事>

石井 直樹 (石井造園株式会社代表取締役)

石黒 一郎 (SDGsコーディネーター)

今田 克司 (一般財団法人CSOネットワーク常務理事)

大川 哲郎 (株式会社大川印刷代表取締役社長)

小坂 真理 (東海大学教養学部人間環境学科 准教授)

佐久間 信哉 (慶應義塾大学 SFC研究所 上席所員)

澁澤 健 (シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役、  
コモンズ投信株式会社取締役会長)

高瀬 香絵 (自然エネルギー財団 シニアマネージャー)

## <ご協力・連携自治体>

愛知県豊田市、神奈川県相模原市、静岡県浜松市、兵庫県

## <事務局長>

松田 孝裕 (SDGsコンサルタント / ティ・エムコンサルティング株式会社  
代表取締役)

## <事務局>

飯島 美枝 (慶應義塾大学 蟹江研究室)

近森 満 (株式会社サートプロ代表取締役)

野中 美咲 (株式会社サートプロ)

# 現状から言えること

## →2030年の「その先」を見る必要

20

- ▶ 未来への協定 (Pact for the Future)
  - ▶ ビヨンドSDGs目標論議の開始:ポスト2030アジェンダ**2027年から検討開始**
  - ▶ GDP**補完し、あるいは超える**フレームワークの開発 (例えばウェルビーイング):ものさしをどうするのか
  - ▶ **宇宙の探査と平和利用**についての国際協力への呼びかけ:デジタル空間、宇宙空間など新たな空間ガバナンスの必要性
- ▶ 2025年からポスト2030/ビヨンドSDGsへ
  - ▶ 第3回VNR (Voluntary National Review:SDGsの日本進捗評価報告)
  - ▶ 万博:最終テーマウィークではSDGs+Beyond
- ▶ SDGs実施指針「2030年以降も見据えた国際的な議論を主導」

# ビヨンドSDGsプロジェクト

ジャパンSDGsアクション推進協議会第10回会議  
(2025.1.30)参加団体

2024年9月国連総会「未来サミット」合意の「未来への協定 (Pact for the Future)」にて、ポスト2030アジェンダを2027年のSDGサミットにて検討することが決定

GDP補完し、あるいは超えるフレームワークの開発  
(例えばウェルビーイング)と2025年からの政府間  
プロセス開始も決定



「ビヨンドSDGs官民会議の設置」により同課題の議論を他国に先駆けて検討、世界を主導

SDGs関連の主要マルチステークホルダー参加の「SDGsアクション推進協議会」(会長蟹江憲史)の事務局を慶應義塾が共同運営し、ビヨンドSDGs官民会議事務局として実質機能することを決定  
(2025.1.30)

1	慶應義塾大学大学院
2	外務省
3	内閣府
4	金融庁
5	環境省
6	経済産業省
7	一般社団法人日本経済団体連合会
8	公益社団法人経済同友会
9	一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン
10	一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク
11	SDGs-SWY
12	次世代のSDGs推進プラットフォーム



# 認証の活用と 持続可能なサプライチェーンの構築

- 大企業：サプライチェーン変革へ向けたリーダーシップを  
← 自らが取り組む覚悟と意思を示す「コミットメント」と、行政機関  
や経済団体などが自ら模範となり、取り組む姿勢を示す「リーダー  
シップ」が足りなかった（Japan VNR 2025）
  - ▶ RE100の要求 ex. ボルボは2040までにカーボンニュートラル、  
2030までにレザーフリー、2025までにすべてのサプライヤーが  
100%再エネ； アップルは取引先に100%再エネ義務付け  
(2024)
- 中小含む全ての企業：フットワークよく持続可能な企業活動  
を
  - ▶ 持続可能＝災害や震災にも強い； いつまでも続く
  - ▶ 認証を活用することで次のステップを明確に
  - ▶ 第三者認証により客観基準で持続可能だという証明を ←ウォッ  
シュ対策
  - ▶ 持続可能な企業ネットワークの構築を

# 認証の活用と 持続可能なサプライチェーンの構築

- 大企業

- ← 関シ

- 日

あたりまえですが、

## SDGsは終わらない

- 中小

- 持
- 言
- 意
- シ
- 持

°を

政機  
ダー

2030  
%再エ

活動を

ツ